

『平家物語』によると、「鶴」は近衛天皇の御代に夜な夜な内裏に現れては天皇を弱らせた怪鳥として登場します。「かしらは猿、むくろは狸、尾はくちなは（蛇）、手足は虎の姿」で声はトラツグミ（鶴）とされる怪鳥（怪獣？）です。トラツグミはスズメ目ツグミ科の鳥で夜にヒョーヒョーと鳴くそうです。どう見ても実在の鳥や獣とは考えられません。それでも探してみると「鶴」に関係する神社や祠が見つかるのが物語の世界の嬉しいところですよ。

平安時代、天皇の住まいである内裏を中心に、国会議事堂にあたる大極殿やその他の建物が建つ官庁街だったのが京都市駅北西にある二条城北に隣接する二条公園（京都市上京区知恵光院通り丸太町下ル）です。公園の北西の一角には、射落された鶴の血がついた矢じりを洗ったとされる鶴池と、鶴の霊を祀る鶴大明神と書かれた祠があります。

また、同じ京都市内、下京区神明町にある神明神社は鶴退治の命をうけた源頼政が祈願に立ち寄り、無事に鶴退治の使命を果たした後にその時の矢じりを奉納したとされています。神明神社は、近衛天皇（在位1155～1159）の妃の養父・藤原忠通の屋敷跡であり、天皇もしばしば皇居として使われたため「四条内裏」とも呼ばれていたそうです。京都のメイン通り、四条烏丸を東南に入った場所にあります。

さて、流された鶴の死骸は桂川を下って大阪湾から兵庫県芦屋市に流れつき、そこで手厚く葬られたといえます。阪神芦屋駅の真下を流れる芦屋川に沿って大阪湾に向かう東河畔に芦屋公園が長く続きます。大阪湾に近い川沿いに自然石に「ぬ江塚 あしや里」と書かれた鶴塚があり、いかにもここが鶴が流れ着いた場所というようですが、塚の看板には「塚は後世のもの」との但し書きがありました。さらに一か所、大阪にも鶴が流れ着いた鶴塚があると聞き、大川（旧淀川）の東岸、大阪市都島区都島本通りにある母恩寺にも行ってきました。

鶴伝説の話の順番に沿って史跡があるのも不思議ですが、京都、大阪、兵庫と史跡をたどっていくと、いつものまにか物語の中にどっぷりとつかった気持ちになって京都にもどりました。

平成二十六年 神無月吉日



←二条城の北隣、住宅街の中にある二条公園。大きな広場と池がある。
↓二条公園内西北には鶴池と鶴大明神の祠がある。



←下京区「神明神社」正面。周辺は飲食店や住宅が密集する。
↓境内の神楽殿。鶴退治の絵馬（写真正面）と、鶴退治に使われたとされるやじりの写真（写真左）が飾られている



←阪神芦屋駅から芦屋川河口を望む



↑芦屋公園「鶴の碑」。芦屋川東側、川に沿って広がる芦屋公園内にある。

←大阪市都島区「母恩寺」

